

学び続けること 人望を高めること (平成29年度3学期始業式あいさつ)

昨年の2学期終業式で、夢と希望が持てるような明確な目標を定めてください。その目標は肯定的に設定し、達成されたとき自分がどうなっているかをイメージしておくことと、手書きで書き出すこと。自分の目標をしっかりと紙に書いたリストを持つことが大事だという話をしました。言葉として存在しないものは現実にならないのです。ぜひ、自分の夢や目標を手書きで形にして目標を達成するよう、実践してください。

今年の干支である戌年は、「結実」を表す年で、勉強、ビジネス、家庭での取組、人間関係等々これまで続けてきた様々な取組、努力が形になるのが戌年といわれています。一方、収穫を終えて一息つく季節や、仕込みの時期ともいわれています。では何を形にし、何を仕込むか？

私は、高い目標や夢を持って、皆さんに松江農林高校生として学ぶ姿勢を形にし、人望を仕込んでほしいと思っています。学び続ける姿勢を持つことは、学生にしても、職業人にしても、これからの社会を生き抜くためには最も必要なことだと思っています。学ぶこと、成長することをやめてしまえばそこで止まってしまいます。その道のスペシャリストになるためにも学ぶ姿勢を習慣化してほしいと願っています。教員も同じです。

さらに、学び続ける姿勢とともに、その道のスペシャリストになるためには、最近ビジネスの世界で重要になっているのが、その人の存在そのものだと思います。どういうことかという、以前は人を評価するのに、どんな高校・大学を出て、何の資格を持っているかという周りからも評価しやすい基準みたいなもので評価されていたのですが、最近では、この人という元気が出る、やる気が出る、癒やされる、周りが影響を受けるなど、人物そのものが絶対的な評価で判断されるようになってきているようです。これが人望と呼ばれるもので、いくら実務能力があったとしても人を引きつける力や周りにいい影響を与える力がなければいい人材とはいえない時代になってきているようです。面接の評価項目の中に「人望」を採用している企業もあると聞きます。

最近の若者に多い傾向として、何をいっても反応が薄く、叱ると黙ってしまう、言葉でNOといわない代わりに苦笑いを浮かべる・・・、これでは人を引きつける力は育たないのです。そして、できる大人が失敗をとおしてレベルアップしていくのに対して、そうでない人は気持ちを切り替えるだけで終わってしまい、失敗の原因を考え次につなげるのが弱いという特徴があるようです。「できません」「無理です」とできない理由を探すのに一生懸命な人と、「まあ、やってみよう」と一歩を踏み出せる人。この違いが、人物の絶対的な評価につながっていきます。この人望というものは一朝一夕に身につくものではなく、長い年月をかけたその人の生き様がその人の絶対的な評価として現れるのだらうと思います。人望の意味を調べてみると、『信頼できる人物として、人々から慕われ、期待され、崇拝されること』とあり、人望が厚い人の何気ない習慣として、

- ・ミーティング・会議の5分前には集まっている
 - ・発言する際の順番は「結論」→「理由」→「具体例」
 - ・挨拶は自分からする
 - ・メールの内容はシンプルでわかりやすい
 - ・約束の時間は守る
 - ・身の回りの整理整頓ができている
- などがあげられています。

皆さんが今年度、あたり前のことを当たり前にしようということで『松農ステージ 118 新たな歴史を刻め～美しく咲け 439の蕾～』というスローガンを掲げてこれまでやってきました。会議の5分前集合とか、あいさつは自分からするとか、約束の時間を守る、身の回りの整理整頓は、いわばあたり前のことです。これが人望に大きく関わってくるのですから、やらない理由はありません。学び続ける姿勢を忘れず、人望を高め、立派な生徒として、3年生は胸を張って卒業できるよう、このまとめの3学期そして次につなげる飛躍の3学期を過ごしてほしいと願っています。